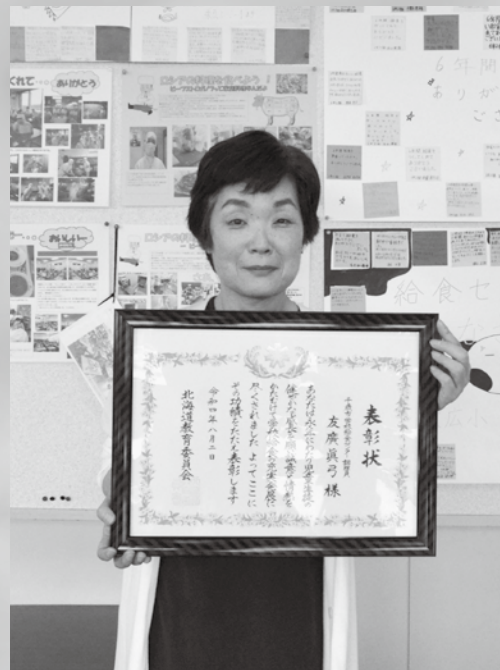


北海道学校給食功績者

給食を食べてもらえる ことが一番の喜び

千歳市学校給食センター
調理責任者

ともひろ まゆみ
友廣 真弓 さん



22年にわたり市内小中学校に提供する給食の調理に携わり、調理員に対して衛生面向上や事故防止のための講義を行うなど後進の育成に尽力。その功績が認められ、8月2日、北海道から学校給食功績者として表彰を受けた。

を作ってくれてありがとう」のお手紙をもらったときは、食べてくれている人がいることを実感できて、大変うれしく思いました。

数ある給食メニューの中でも、自信作はカレーとみそ汁などの汁物です。カレーは数種類のルーをブレンドして作ったオリジナル、汁物はだしをしつかりと取っていることが売りです。昆布やカツオ、いりこでだしを取り、しかも一番だしのみを使っています。また肉じゃがの日には、何百キロものじゃがいもを数人の調理員が手作業で一斉に切るので壮観です。

これら給食に関することは、意外と伝わっていないと感じています。さまざまな形で子どもたちに調理のことを知ってもらえれば、そこから給食についての興味が湧いてくるのではないのでしょうか。

「こんな工夫や苦労があるんだ」と知ってもらい、それを意識して食べてくれたら、とてもありがたいです。

児童、生徒の皆さん、苦手だと思っているものでも、一口食べてみたら意外とおいしくかもしれないよ。皆さんに給食を少しでも食べてもらえることが、私たち調理員の一番の喜びです。

私の仕事は、工事現場でいう現場監督です。学校給食センターには50人以上の調理員がいますから、いろいろなことが起こります。ときには口うるさく指摘することもありますが、見ないふりはできません。

給食調理の現場は、知れば知るほど安全・安心を重視しなくてはならない場所ですから、現状に満足せず、「もっとやれることはないか」と常に考えています。ただ、それを実行するとほかのスタッフの負担にもなるので、そこに葛藤や悩みがあるのも事実です。それでも、皆さんが協力してくれるので大変ありがたく、助かっています。

調理員は子どもと直接触れ合う機会は少ないですが、栄養教諭を通して「いつも給食



千歳国際・友好都市 交流協会について



アンカレッジ空港にて
ホストファミリーとのお別れ

こちらのコーナーでは5回にわたって千歳市の姉妹都市・友好親善都市を紹介してきました。皆さん、千歳市の交流都市について知ってもらえたでしょうか？

最終回は市民団体である「千歳国際・友好都市交流協会」（以下、「本協会」）を紹介します。

本協会は、「千歳国際交流協会」と「千歳姉妹都市交流協会」の統合により、令和3年4月に設立しました。主な事業は、姉妹都市との交流、海外交流、地域での外国人住民との交流、各種助成などを行っています。また同時に、市民の皆さんが実施する、国際交流イベントや講習会などを支援することにより、国際交流を身近に感じていただくための環境づくりに取り組んでいます。

第6回

新型コロナウイルス感

染症の影響により、近年は多くの事業が中止されていますが、そのような状況下でも、オンラインを活用するなどして事業を継続してきました。本協会では、これからも市民レベルでの国際交流事業を、皆さんとともに大きく育てていきたいと考えています。

本協会は「個人会員」、「団体会員」、「法人会員」、「行政会員」で構成しており、通年で新規会員を募集しています。市内の国際交流イベント情報をいち早く知ることができ、イベントの参加料が割引になるなどの特典があります。

千歳国際・友好都市交流協会の会員になって交流事業に参加してみませんか？

協会のブログは
こちらから

